

# 鷹取山自然観察会会報

2019.12.8 NO.26

## 鷹取山の緑地保全について

鷹取山の緑地保全の考えについて、横須賀市自然環境共生課を訪問し聞き取りをしたので報告する。なお、平成27年9月会報9号に当時の緑地保全について掲載している。横須賀市の緑地保全については「横須賀市のみどり計画」及び「みどりの基本条例」を基に進められている。

現在のみどり計画は平成28年(2016年)に策定しており、5年経過ごとに見直しをすることになっている。令和3年(2021年)に見直し予定であり、今年度から改定作業を進める。

改定の課題としてはいくつかあるが、みどりの保全と関連して都市公園のあり方等について検討していく。また、生物多様性の地域戦略に関する答申をどのようにみどり計画の中に位置づけていくか検討していく。現計画でも生物多様性については書き込んであるが、更に計画に盛り込むか検討課題である。

鷹取山のみどりということでは、平成27年以降特に大きな変更はないが、みどり基本条例、市街化区域樹林地支援制度については、個人情報保護から緑地の位置等について公開できないが面積、契約戸数は増加している。現在、鷹取山周辺では樹林地支援制度の面積は5.4haとなっていて地権者と契約をしている。斜面緑地の多い船越地区は、開発に必要な取り付け道路がないため、住宅開発が困難な場所が多くあるようだ。土地の寄贈の申し出もあるが、市として管理できないなどで受け入れはしていない。

ケイワタバコ等貴重種の保護については、以前からお願いしているところであるが、今のところ具体的な対応策はない。他自治体など調査し、何を貴重種として、どのように保護していくかを検討する必要があるようだ。

鷹取山公園を公共施設における自然植生の保全に向けた「保全配慮指針」に位置づけることについて、特にコメントはなかった。

県、逗子市等広域的な緑地保全に向けた連携について、引き続き重点として取り組んでいくとしている。

今回、横須賀市からの説明で注目したのは、都市公園としての鷹取山公園及び都市林等の位置づけが、みどりの保全に大いに役立っていること認識していることであった。この周辺には都市林は13.6haと面積も広い。鷹取山公園、鷹取公園9.2ha、街区公園約5.3ha、民有樹林地支援制度を含めると公園等の緑地面積は30ha以上となる。鷹取山公園は都市公園の種別では風致公園となっている。風致公園とは「主として風致を享受することを目的とする公園で、樹林地、水辺地等の自然条件に応じ適切に配置する。」である。市では今後、これ以上の改変、観光地としての開発の恐れはないと考えている。

また、以前からパブコメなど通じて特別緑地保全地域の指定について申し入れなどしているが、都市計画決定と都市公園法の位置づけと、どちらが緑地保全の観点から重みがあるか判断はできない。

### 市街化区域内における樹林地の保全支援制度

みどり基本条例17条において市は、市街化区域内にある貴重な樹林地を保全するために、樹林地の所有者と市で保全契約を結び、契約者に「樹林地保全支援金」を支給している。

- 対象地域:市街化区域内にある500平方メートル以上の樹林地で、地目が山林または雑種地
- 契約期間:5年間(契約満了後は契約を更新するか選択できる)
- 支援金:契約した樹林地の固定資産税及び都市計画税の額に3を乗じて得た額と契約した樹林地の面積1平方メートルあたり2円を加えた額

## 鷹取山周辺の緑地保全の現状



## 台風15、19号の被害

9月9日に三浦半島を通過した台風15号は、この地域では経験したことのない被害をもたらした。この地域でも土砂崩れ、停電などが一部で発生し、風による倒木などが山間部で多発し、いまだに倒木の撤去が終わっていない状況である。

15号から1月後の10月12日には台風19号が大型で強い勢力で伊豆半島に上陸し、東日本に豪雨災害をもたらした。これら台風の鷹取山への被害も含めて報告する。

### 1. 台風15号について

9月5日南鳥島近海で発生した台風15号は、強い勢力で伊豆諸島近海を北上し、進路を東寄りに変えて、9日午前3時前に神奈川県三浦半島を中心気圧は955hpaで通過し、午前5時頃に千葉県千葉市付近に上陸した。関東に上陸した台風では、昭和26年以降記録的に強い台風であった。

首都圏の最大瞬間風速は、千葉市中央区で57.5m、羽田空港で43.2m、横浜市中区で41.8m、三浦市で41.7mを観測した。国の発表では、東京都で死者1名、埼玉県と千葉県、神奈川県、茨城県での重傷者11人を含む11都6県で150人が重軽傷を負った。

また、送電塔、電柱の倒壊、損傷により神奈川県と千葉県を中心に93万戸が停電した。特に千葉県内では復旧に時間を要したことにより、停電は長期間に及んだ。逗子市を通る県道では、小坪トンネルの出口付近で土砂崩れが発生した。



### 2. 台風15号の気象

鷹取山の付近での気象観測は、横須賀市消防局北消防署の観測データがある。当日の風向、風速、最

大瞬間風速は、表、図のとおりであり、9日2時6分に最大瞬間風速42.4mを記録している。風向は通過

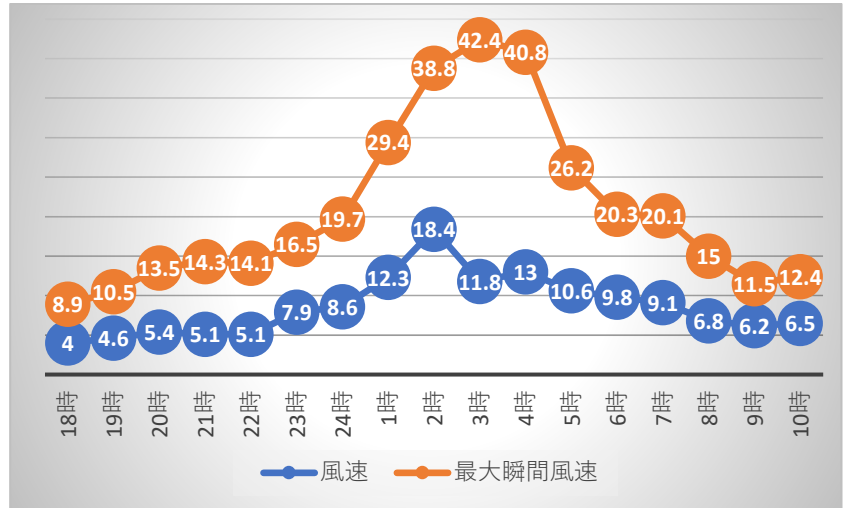


する6時間前の22時は東風であったが、反時計回りに風向きを変えていき3時では北北西、それから西風へと変わっていった。降水量は9日2～3時にかけて時間30mmの強い雨が降り、2日間で計106mmであった。

た。倒木と風速の関係について、最大風速22m/s以上、最大瞬間風速40m/s以上となった場合に、急速に倒木被害本数が増加しているとの報告がある。

表1 横須賀市北消防署の観測結果

時間	最大瞬間風速	風向
22時	14.1	東
23時	16.5	東北東
24時	19.7	東北東
1時	29.4	東
2時	38.8	東北東
3時	42.4	北北西
4時	40.8	西北西
5時	26.2	西
6時	20.3	西南西



(単位：m/s)



### 3. 倒木の撤去作業

今回の台風では過去に例のないほどの倒木被害が発生した。鷹取山ではスダジイ、カシ類、タブノキなどの照葉樹とクヌギ、コナラなどの落葉樹が多く見られる。また、鷹取山公園にはソメイヨシノが植樹されている。今回、これらの樹木の倒木、傾木、幹折れ、根の基盤滑りなどが多発して、観察路の通行に支障をきたした。倒木などの樹種としては、ソメイヨシノ、コナラ、タブノキ、ウラジロガシ、アラカシ、スダジイ、スギ、ヌルデ、ヤマザクラ、ヤマグワ、ケヤキ、アカメガシワ、カラスザンショウなどで倒木の数は相当な数にのぼる。当会では会員有志により通行の妨げとなっている樹木の撤去を行った。当会以外でも倒木の切断など多くのボランティアが参加して、台風通過の1週間後には通行できるまでに至った。幹回り1mを越すものはノコギリでは切断できず、最後まで放置されていたが、最



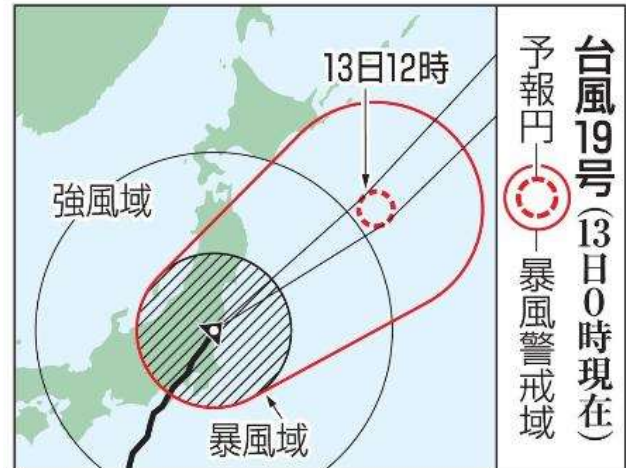
近ボランティアの方が切断してくれた。観察路以外では多くの倒木があり、至る所でギャップが生じている。今後、植生が大きく変わっていくと思われ、植物相調査を通じて観察していきたい。



#### 4. 台風19号の影響

台風19号は10月12日に大型で強い勢力で伊豆半島に上陸した後、関東地方を通過し、13日未明に東北地方の東海上に抜けた。静岡県や関東甲信地方、東北地方を中心に広い範囲で記録的な豪雨災害となり、甚大な被害をもたらした。神奈川県箱根町では降水量1000mmに達した。

豪雨による川の堤防の決壊が各地で発生し、千曲川、多摩川、阿武隈川周辺の他にも様々な場所で川の氾濫が発生した。これまでに、死者96名、行方不明4名の人的被害があった。(神奈川県8名、行方不明1名)。河川の氾濫などにより農林水産関係の被害額は



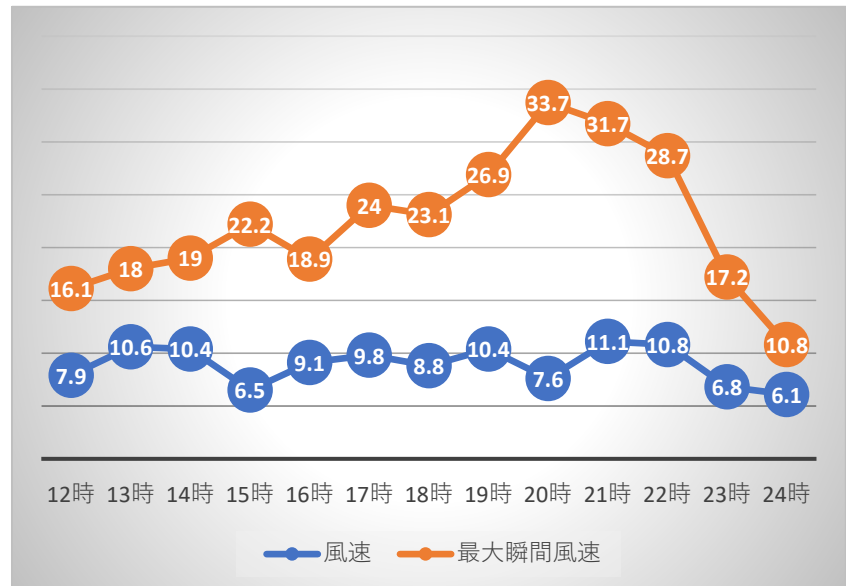
はこれまでに1300億円となり、先月の台風15号と合わせた被害額は1800億円を超えている。

#### 5. 台風19号の気象

横須賀市消防局北消防署の観測データによる台風19号の風向、風速、最大瞬間風速は、表、図のとおりであり、12日19時49分に最大瞬間風速33.7m/sを記録している。風向は通過する6時間前の14時は東風であったが、東南東～西南西へと変わっていった。降水量は12日早朝から強い雨が降り、6時～9時にかけて時間10～22mmの強い雨が降り、1日降水量は130mmであった。

表2 横須賀市北消防署の観測結果

時間	最大瞬間風速	風向
14時	19	東
15時	22.2	東南東
16時	18.9	東南東
17時	24	東南東
18時	23.1	東南東
19時	26.9	東南東
20時	33.7	東南東
21時	31.7	西南西
22時	28.7	西南西
23時	17.2	南西
24時	10.8	西南西



単位：m/s

19号による倒木等の被害は15号に比べて少なかったが、倒木、傾木、枝折れなど一部で観察路の通行を妨げる被害が見られた。15号に比較して風速が低く、降水量が他の地域と比較して少なかったのが被害を少なくしたのかもしれない。

近年、地球温暖化により海水温が高くなっていて、台風が大型化している。今年が特別ではなく、今後も自然災害に対する備えが必要である。



# 巣箱の掛け替え —令和1年11月—

## 1. 巣箱の掛け替え

シジュウカラ、ヤマガラは巣箱をよく利用する野鳥であり、当会では平成25年から野鳥の保護を目的に毎年巣箱掛けを行ってきた。平成25年に8個、平成26年に9個を子ども達とイベントを開催して鷹取山公園にかけてきた。現在17個の巣箱が掛かっていて、毎年、巣箱の掃除及び利用状況を調べ、再度巣箱掛けを行っている。

予定日が雨天となったため、11月29日に延期して実施した。10時に鷹取山公園に会員6名が集まり、午前12時まで巣箱の掛け替え作業を行ったので報告する。

当日は2班に分かれ、巣箱の利用状況を調べ、巣箱の中を掃除し、再び木に掛けた。今年は台風15号の影響もあり、倒木などにより巣箱が不明のものもいくつか見られた。巣箱を掛ける場所は、従来と同じ樹木か、その周辺の樹木に掛けなおした。また、巣箱の位置は地面から2～3メートルの高さで、周囲に枝がなくて見通しがよい場所とした。天敵のヘビなどに侵入されにくい場所を選定している。

## 2. 利用状況

巣箱の利用状況は、鷹取山北側では8個（2個が落下して巣箱が不明）のうち2個、摩崖仏側では9個（1個が巣箱が不明）のうち4個の計6個が利用されていた。今年の利用率は42.9%（平成30年43.8%、平成29年26.7%、平成28年52.9%）であった。他の地域の巣箱利用状況などを調べてみると30～50%程度である。毎年、利用している巣箱もあり、鳥にとって利用しやすい巣箱があるようである。

## 3. 巣箱の中

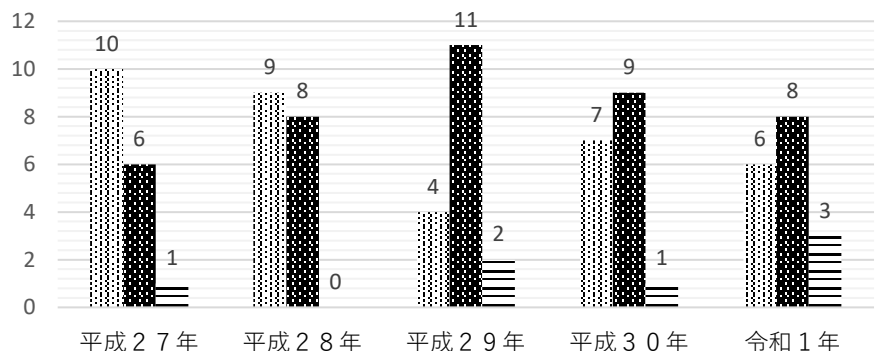
巣箱は上蓋が開くように作っており、蓋を開け確認した。巣の材料はコケが主体であるが繊維状のものも多く見られた。巣穴は直径3cmにしてあるので利用したのはシジュウカラ、ヤマガラのいずれかと思われる。巣箱の中には鳥の糞だけが入っているものもあった。ねぐらとして利用したのかもしれない。

来年の繁殖期には鳥たちが巣箱を利用してくれることを願っている。また、会ではモニ1000里地調査として12月から第1、3金曜日に鳥類観察を行っていく予定である。



巣箱の利用状況

■ 利用 ■ 未利用 = 未確認



巣箱の利用状況も継続して観察していく。鳥類に関心のある方は参加をおねがいします。

巣箱の掛け替えに参加した人

本多、中村、市川、三科、小池、郡司（順不同、敬称略）

## 階段の整備

10月30日水曜日に10時から会員有志により2時間ほど水道タンク側の階段整備を行った。この場所は、摩崖仏への上り、住宅地への下りとして使用頻度が高い。年数も経っていて階段の杭や留目板が腐っている板などもあり、以前から修繕を検討していた。私たちの団体でも植物相、蝶、鳥など生き物調査に使っていて危険防止の観点から整備することとした。

作業は土留の板の交換と杭を2本打ち込み、階段のステップの整備を上から順番に行った。普段力仕事をしていないこともあり、2時間ほどの作業で大変疲れた。ここ以外にも滑りやすい場所はあるが、今後整備していきたい。今回は土留の板は、会員の持ち込みとホームセンターで購入した板などを使った。購入費用は、年会費で負担したので報告する。



参加した人

本多、中村、郡司、村上、伊沢（順不同、敬称略）

## パネル展及び写真展



湘南鷹取4丁目の「湘鷹みんなの部屋」で、11月1日～29日の間、鷹取山自然観察会のパネル及び写真展を行った。パネルでは、鷹取山自然観察会の活動報告をA1パネル2枚で解説している。

写真展は「鷹取山でよく出会う昆虫」をテーマに鷹取山に生息する蝶、蛾、カメムシ、甲虫、ハチなどの写真を20枚ほど展示した。写真は会員の三科さんが撮りためたものを展示した。

展示に当たり、解説文をつけたので紹介する。

昆虫は種類の多い生き物です。全世界の昆虫は、知られているだけでも約100万種いて、確認されている生物種の半分以上になると言われています。日本では約3万種の昆虫が確認されています。（「日本産生物種数調査：日本分類学会連合」などを参照）昆虫は体が小さいので、省資源で生きていけます。翅があるので、飛ぶことができます。体は丈夫なクチクラの外骨格で覆われています。繁殖スピードが早く、遺伝子の変化も早くなります。こうしたことから、地球上の様々な環境に適応し、多様な生き方ができるように進化したと言われています。昆虫は、陸上植物の出現から間もない4億年以上前に出現しました。鷹取山には、林地、草地、裸地と変化に富んだ環境があり、多様な植物が見られます。そんな鷹取山を歩けば、様々な生き方をする種々の昆虫に出会うことができます。写真で紹介した昆虫は、ほんの一部です。他にも、ハチ、カメムシ、カマキリなど、多くの仲間がいます。一説によれば、シジウカラ1羽で1年に12万5千匹のイモムシを食べるそうです。小鳥も多く見られる鷹取山には、膨大な数の昆虫がいるはずで、身近にありながら、豊かな自然に出会うことができる鷹取山を、これからも大切にしていきたいと思えます。



## 鷹取山の思い出

私は生まれも育ちも六浦町の関東学院の近くで、小学校は瀬ヶ崎小で、鷹取山を遊び場として育ちました。と言ってもそれほど頻繁に鷹取山に登ったわけではありません。昭和30年ごろ、小学校中学年ごろまでは、隣のお兄さんに連れられて、初冬の鷹取山に登りました。その目的は、ユリ根掘りと山芋堀でした。

ユリ根は、ヤマユリの球根を掘ります。これは掘るのはそれほど難しくありませんが、枯れているユリの茎を探すのが大変でした。日当たりのよい藪の中



に分け入って、半日探して1個か2個掘れば大収穫です。お兄さんたちは5個も6個も掘ったのでしょうか、私がなにも掘れないと1個もらいました。それを持ち帰り、甘く煮てもらい食べました。他にも掘っている人がいたことでしょうか、それでも掘れたのですから、ヤマユリは多く生息していたのでしょう。しかしみんなが採ったために全くなってしまうりましたが、最近ようやく野生のヤマユリをぽつぽつとみることができるようになり、ホット安堵しています。正月のおせち料理で、きんとんを食べるときそのことを思い出します。

山芋堀は大変な作業でした。今でいう自然薯掘りで、専用の掘る道具が各家庭にあったものです。この道具を「千成」ということを大人になってから知りました。まずヤマノイモの蔓を探さなければなりません。黒くて太い蔓でなければ芋は小さく食べるに適しません。ようやく見つけると、千成で垂直に1mほど掘っていきます。名人が掘ると30cmほどの長方形で垂直の穴になりますが、私が掘ると無駄に大きい穴でしかありません。しかもどんなに注意して掘っても途中で芋は切れてしまいます。それでも何とか3切れ4切れになった山芋を持って帰ると、母親はとろろ芋を作ってくれたものです。

5年生になると、突然昆虫採集が流行り、クラスの男全員が熱中しました。目指すは甲虫のクワガタです。コクワガタ、これはいくらでも採れました。貴重なのはノコギリクワガタ、ミヤマクワガタ、ヒラタクワガタで、採れたら鼻高々でクラスでの自慢でした。カブトムシはほとんどいませんでした。夏休みの早朝、親に10円玉をもらい採集網と捕獲瓶を持ち鷹取山に登りました。虫が集まるクヌギの木などを巡り、神武寺まで行き、寺の境内でハンミョ

ウを捕まえました。今トイレがある前に茶店があって、そこで5円の大きなべっこう飴（当時1円で飴1個買えました）を買うのが楽しみでした。残りの5円で神武寺駅から六浦駅まで電車に乗り（初乗り大人10円子供5円でした）帰宅しました。9月、全員が夏休みの宿題として、菓子箱に虫ピンで止めた昆虫標本を提出しました。しかし、それはひと夏だけの経験で、6年生になると誰もが忘れていました。

その当時の岩場では、ロッククライミングが行われていて、ハーケンを打ち込み何本もナイロンザイルが張られて岩登りをしていました。新田次郎の小説『銀嶺の人』で主人公の駒井淑子が岩登りの練習をしたのはこのころでしょう。その名残の穴を、現在はボルダリングの手がかりとして使っています。転落事故が起きてハーケンを使うロッククライミングが禁止されたため、しばらく途絶えていた岩登りが現在はとてもにぎわっています。

現在の奇形した岩場は、明治の中期より浦郷村の名主高橋清光氏が政府から払い下げを受け、「鷹取石」として切り出されたことにより生じたものです。私の子供のころは、まだ細々と数人で切り出しているのを見ました。切り立った岩の上に社が祭られていたといいますが、何時のことか私の記憶にはありません。昭和32年に西武不動産が鷹取山を取得してゴルフ場の開発を計画しましたが、断念して昭和40年ごろから団地のための開発を始め、現在に至ります。そのため、六浦から鷹取山に至るまでの山並みはすべて消滅してしまいました。

（市川 寛）

## アカタテハの前脚

タテハチョウの仲間は前脚が退化しているので、歩いたりとまったりする時は中脚と後脚しか使いません。小さな前脚は折り畳まれているので、まるで4本足のように見えます。鷹取山でも良く見かけるアカタテハは、産卵の前にその前脚で食草の味見をします。幼虫が育つのに適したカラムシなどイラクサの仲間の葉を味見し、気に入ったら産卵します。今年11月1日に鷹取山の草原で出会ったアカタテハは、白い毛の密生した前脚を伸ばして、カラムシの葉の味見をしていました。産卵はしませんでした。何とか前脚を伸ばした写真を撮ることができました。11月に産卵しても、孵化した幼虫が越冬するのは難しかったかもしれません。アカタテハは成虫で越冬する蝶です。成虫で越冬する蝶は、春早くから産卵することによって、年間の繁殖回数を増やすことができます。真冬の暖かい日に日光浴をする



アカタテハを見ると、「頑張れよ」と声をかけたく  
なります。  
(三科 清高)

## 虫の写真館

竹之下香苗さんから、オオスカシバの写真をいただきました(2018年9月24日撮影)。オオスカシバはハチに擬態していると言われます。昼間、透明の翅を高速で羽ばたかせて花の周りを飛び回るオオスカシバは、大きなハチのように見えますが、ハチではなくスズメガの仲間です。幼虫はクチナシなどの葉を食べ、蛹で越冬します。ホバリングしながら長い口吻を伸ばして吸蜜する姿は、写真だとよくわかります。太い胴体も特徴です。高速で翅を動かす筋肉は、たくましい胸の中にあります。1秒間に70回以上といわれるはばたきと同じ回数、高速で筋肉を動かしています。



鷹取山自然観察会 (ホームページを見て下さい)

HP : 鷹取山自然観察会

<http://takatoriyama.eco.coocan.jp/>

連絡先 : 世話人代表 : 本多久男 e-mail : takatori\_0721@nifty.com